

第2編 健康づくりの推進（各論）

第4章 ライフステージごとの健康づくり

序 ライフステージごとの健康づくり

現在の健康状態は、それまでの生活習慣や社会環境など様々な要因の影響を受けて形成されています。社会の多様化や、人生100年時代の到来を踏まえ、個々人の特性をより重視した健康づくりが重要です。

「健康」な状態を生涯にわたって維持するためには、毎日の生活の中での健康行動はもとより、胎児期から老齢期までの生涯を経時的に捉えた健康づくり（ライフコースアプローチ）の観点も取り入れ、年齢、性別、活動状況など県民一人ひとりの状態に応じた「ライフステージ」ごとの健康づくりが重要です。

特に、

- ・ 幼少期からの生活習慣や健康状態は、成長してからの健康状態に大きく影響すること
- ・ 高齢期まで健康を保持するためには、若年期や働き盛り世代の時期からの継続的な取り組みが重要であること
- ・ 女性の年齢により女性ホルモンが劇的に変化する特性を踏まえた健康課題の解決を図ることが重要であること

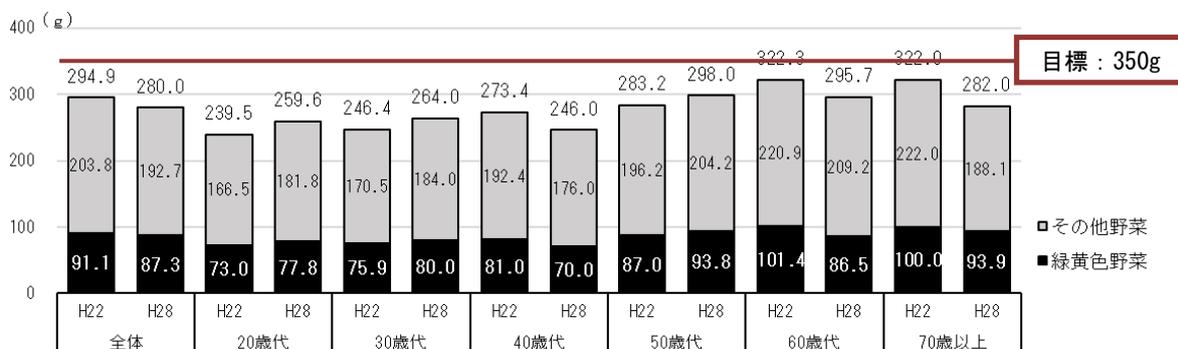
などから「こども」、「高齢者」、「女性」、「働き盛り世代」に着目した健康づくりに取り組みます。

○各ライフステージの考え方（目安）



【主要データ】 ～各種データの年代別比較～

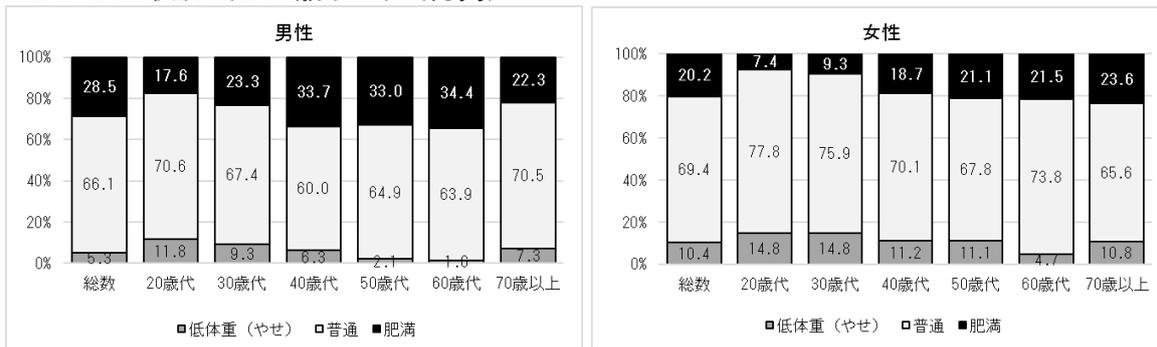
■野菜摂取量（20歳以上1日当たり）（再掲）



出典：県民健康栄養調査（富山県）

野菜摂取量は、全体で見ると減少傾向にあります。また、年代別の野菜摂取量をみると、20～40歳代で特に少ない傾向にあります。

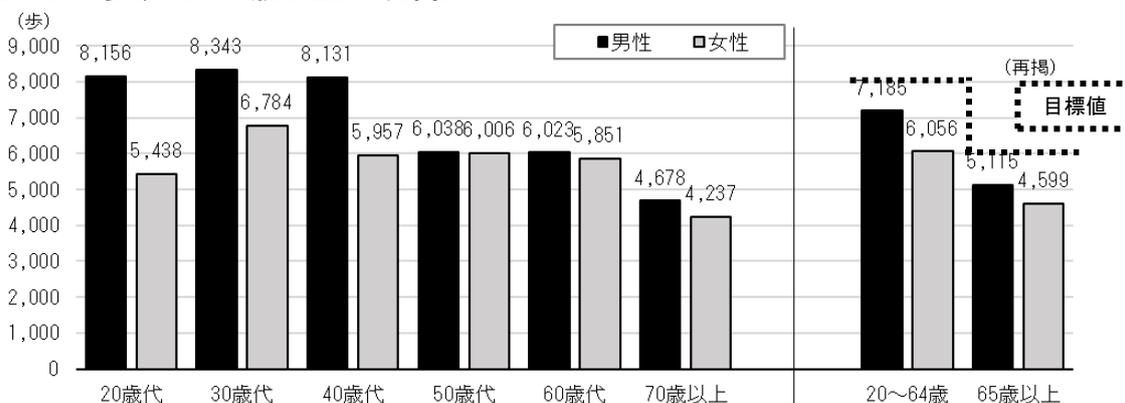
■ BMI の状況（20歳以上）（再掲）



出典：令和3年県民健康栄養調査（富山県）

BMI（肥満度）をみると、男性は40～60歳代を中心に肥満者（BMI 25以上）が多く、一方、女性は特に20～30歳代で低体重（やせ、BMI 18.5未満）が多い傾向にあります。また、70歳以上の高齢者で低体重が増加しています。

■ 1日の歩数（20歳以上）（再掲）

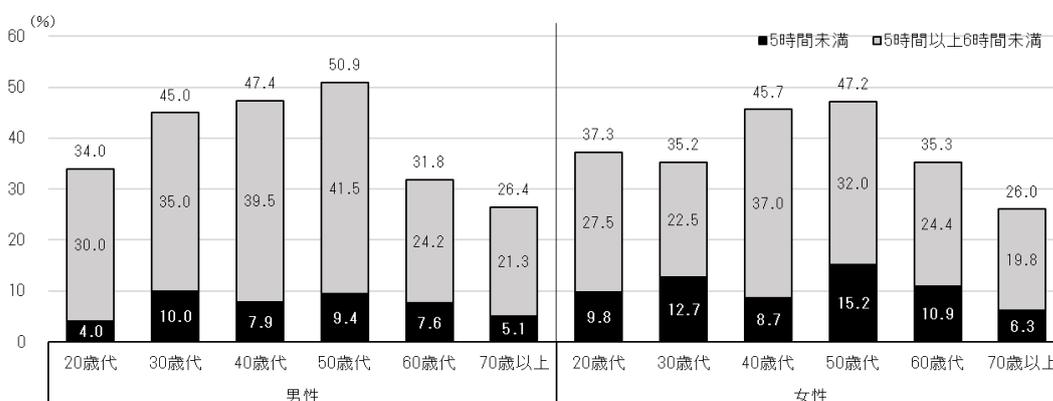


出典：平成28年県民健康栄養調査（富山県）

（※国の令和3年度国民健康栄養調査が中止となり、本県における直近値は2016（H28）年度の結果）

1日の歩数（20歳以上）をみると、すべての年代で目標値には届いておらず、特に男性では50歳代以上の歩数が、40歳代以下の世代と比べて少なくなっています。

■ 平日の睡眠が6時間未満の者の割合（性・年代別）（再掲）



出典：令和3年健康づくり県民意識調査（富山県）

平日の睡眠が6時間未満の割合（2021（令和3）年）を性別・年代別にみると、男女ともに40歳代、50歳代が多く、男性は30歳代も多くなっています。

1 こどもの健康

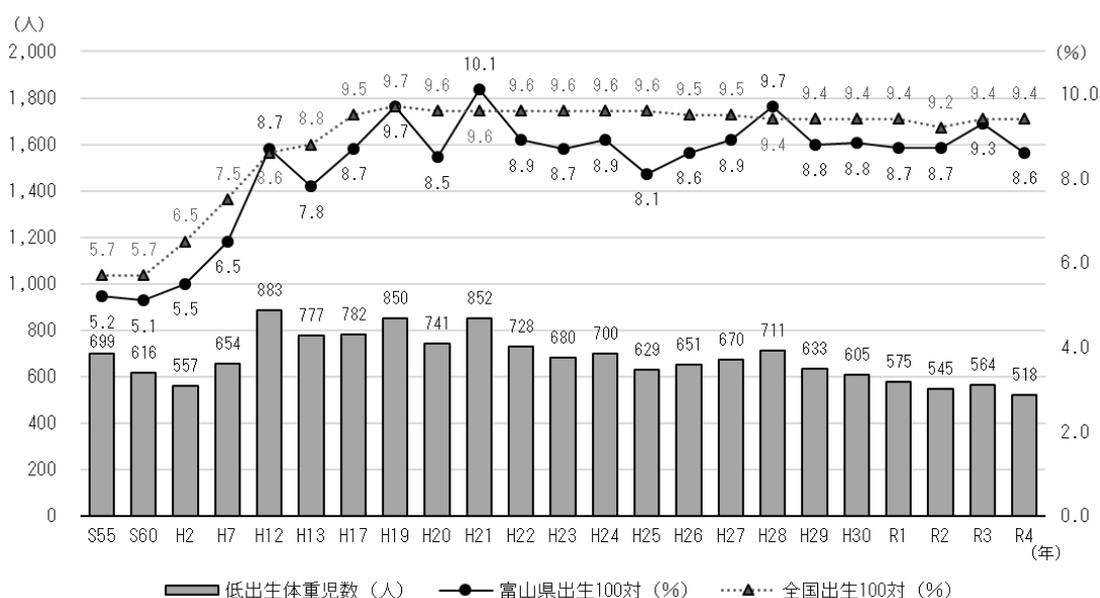
こどもの健やかな発育とより良い生活習慣を形成することは、その後の成人期、高齢期等の生涯を通じた健康づくりにつながります。また、こどもが成長し、やがて親となり、その次世代を育むという循環においても、こどもの健やかな発育や生活習慣の形成が基礎となることから、幼少期からの健康的な生活習慣の習得・継続について、家庭、地域、学校等が連携し、社会全体で取組みを進める必要があります。

(1) 現状と課題

- 低出生体重児の割合は横ばいで推移しており、概ね全国値より低くなっています。
- 朝食を食べているこどもの割合は、小学5年生、中学2年生ともに約9割と横ばいで推移しています。
- 運動やスポーツを習慣的にしているこどもの割合をみると、小学5年生男子は減少傾向にあり、小学5年生女子はほぼ横ばいとなっています。
- ◆安心して子どもを生み育てることのできる環境の整備等、母と子の健康づくりを支援する必要があります。
- ◆学校と家庭、地域が一体となって、こどもの運動の習慣化や体力向上に取り組む必要があります。
- ◆食を大切にすることを育む食育及び健康教育を推進する必要があります。
- ◆地域活動を通じて社会性を身に付け豊かな心を育む地域の教育力の充実に努める必要があります。

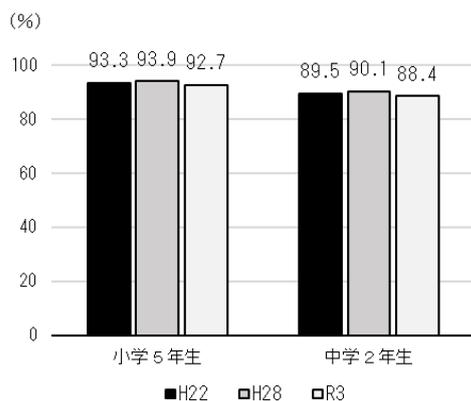
【主要データ】

■低出生体重児の出生の年次推移



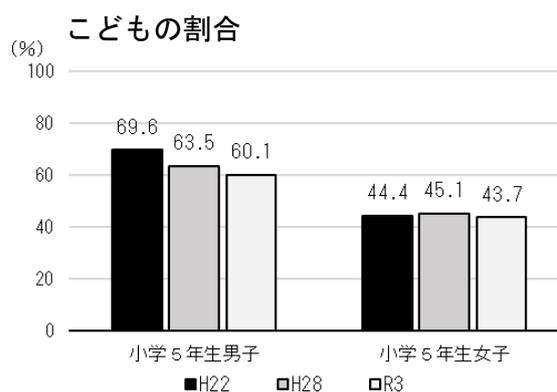
出典：人口動態統計（厚生労働省）、保健統計年報（富山県）、母子保健の現況（富山県）

■朝食を食べているこどもの割合



出典：学校保健統計調査のあらまし（富山県）

■運動やスポーツを習慣的にしている



出典：富山県児童生徒体力・運動能力調査（富山県）

(2) 施策の展開

○取組みの基本方向【目指す姿】

- ・母と子の保健医療等の充実を図り、安心して安全にこどもを生き育てることのできる環境の整備に取り組みます。
- ・学校と家庭、地域が一体となってこどもの運動の習慣化や体力向上に取り組みます。
- ・食を大切にする心を育む食育及び健康教育を推進します。
- ・地域活動を通じて社会性を身につけ豊かな心を育む地域の教育力の充実に努めます。

○主な取組み

[乳幼児期]

- ・こどもの健やかな成長のための、母と子の身体と心の健康づくりの推進
- ・母と子の絆やこどものこころと身体を育てるための、母乳育児の推進
- ・妊娠・出産や乳幼児の健康などに関する情報提供、専門相談などの充実

[学童期] [思春期]

- ・親子の運動遊びやスポーツ教室等、児童生徒の発達段階に応じた「元気っ子育成計画」の実施や、「きときと夢体操」の普及など、幼稚園、保育所、学校と家庭、地域が連携したこどもの運動習慣の定着や体力の向上の推進
- ・こどもや保護者に対する望ましい食習慣の定着と健康教育の推進
- ・家族そろって食事をするなどの機会を提供する「とやま子育て応援団」制度の普及と利用の促進
- ・ふるさと学習や自然体験活動を通じた地域ぐるみでの心豊かなこどもたちの育成
- ・学校でのフッ化物洗口やこどものむし歯を予防する生活習慣の定着のための歯磨き教室の実施
- ・テレビ・ゲーム・パソコン・タブレットなどのメディアが、こどもの目や心身の健康に及ぼす影響や、適切なネット利用についての普及啓発
- ・児童生徒の健康診断結果等の分析による生活習慣病等の予防対策の実施
- ・喫煙や飲酒、薬物等による健康への影響に関する正しい知識の普及
- ・性と生殖に関する正しい知識の普及、妊娠・出産に関する相談体制の推進

(3) 目標（指標と目標値）

目標（指標）	現状値	目標値	目標値の考え方（出典）
低出生体重児の割合の減少	8.6% (R4)	減少する	第2次計画の進捗状況を考慮し目標値を継続
全出生数中の低出生体重児の割合			人口動態統計
母乳や混合栄養※で育児している者の割合増加	83.7% (R4)	増加する	第2次計画の進捗状況を考慮し目標値を継続
母乳+混合栄養率（3か月児）			子育て支援課調べ
運動やスポーツを習慣的にしているこどもの割合の増加〔再掲〕	男子（小学5年生） 60.1% 女子（小学5年生） 43.7% (R3)	増加傾向へ	第2次計画の進捗状況を考慮し目標値を継続
学校の体育の時間を除き、ほとんど毎日（週に3日以上）運動やスポーツをしているこどもの割合			富山県児童生徒体力・運動能力調査
朝ごはんを食べているこどもの割合の増加	小学5年生 92.7% 中学2年生 88.4% (R3)	できるだけ100%に近づける	第2次計画の進捗状況を考慮し目標値を継続
朝ごはんを食べているで「はい」と答えた者の割合			学校保健統計調査のあらまし
こどもの地域活動体験率の増加	小学6年生 71.7% 中学3年生 48.1% (R5)	現状以上	第2次計画の進捗状況を考慮し目標値を継続
こどもの地域活動体験率			全国学力・学習状況調査
育児休業取得率（男性）の向上	8.8% (R3)	80%以上 [2026 (R8)]	県総合計画、富山県民男女共同参画計画（第5次）に準ずる
育児休業取得率（男性）			富山県賃金等労働条件実態調査

※「混合栄養」とは「母乳」と「人工乳」の両方を与えているものを指す。

2 高齢者の健康

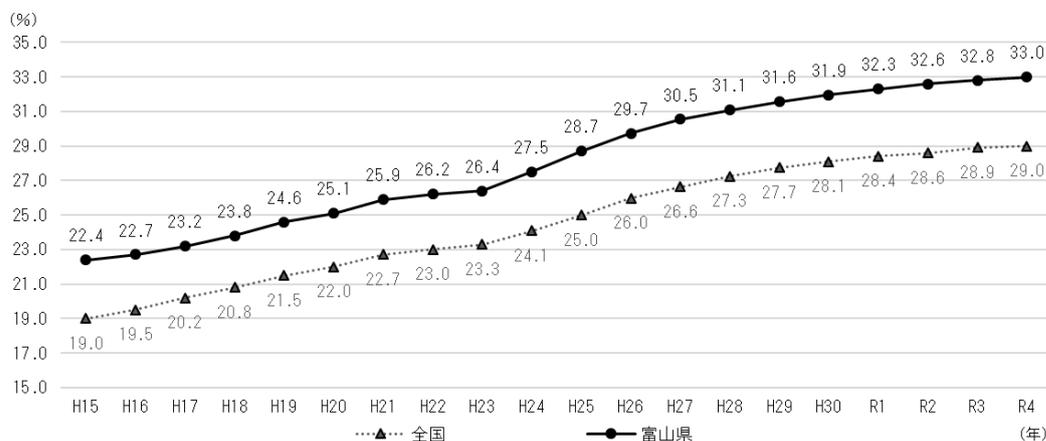
全国水準を上回るペースでの高齢化が進行し高齢者人口が増加する一方、健康寿命の延伸等により元気な高齢者も増えています。社会参加や就労が高齢者の健康増進につながることから、これらの機会を促進し、高齢者が意欲や能力に応じて「社会の担い手」として、様々な分野で生涯活躍することができる社会の実現を目指します。

(1) 現状と課題

- 本県の人口に占める高齢者の割合は増加傾向にあり、2022（令和4）年の高齢者割合は33.0%と全国値（29.0%）と比べて高く、全国水準を上回るペースで高齢化が進んでいます。
- 要介護（要支援）認定者数（65歳以上）は増加傾向にあり、2016（平成28）年度以降、要介護（要支援）認定者数は6万人以上となっています。
- 介護を必要としない高齢者（65～74歳）の割合は横ばいで推移しており、2021（令和3）年度は95.9%と全国値（95.6%）より高くなっています。
- ◆良好な栄養・食生活、身体活動・体力の維持や向上のための運動など、個々人にあった生活習慣を普及するとともに、認知症対策やロコモティブシンドローム（運動器症候群）、加齢による虚弱（フレイル）の予防、口腔機能の維持・向上など、介護予防の充実を図る必要があります。
- ◆健康的な生活習慣づくり、手軽にできる運動やスポーツを通じた健康づくりの推進を図る必要があります。
- ◆高齢者が、これまで培ってきた知識や経験、技能等を活かし、意欲や能力に応じて、地域社会の担い手として生涯活躍できる「エイジレス社会（生涯現役社会）」の実現に向け、高齢者の社会参加活動等への支援や、健康で生きがいをもって暮らすことのできる環境づくりを進める必要があります。
- ◆認知症についての関心と理解を深めるための普及啓発に努めるとともに、早期発見、早期診断及び早期対応につながるよう関係機関の連携協力体制の整備を進める必要があります。

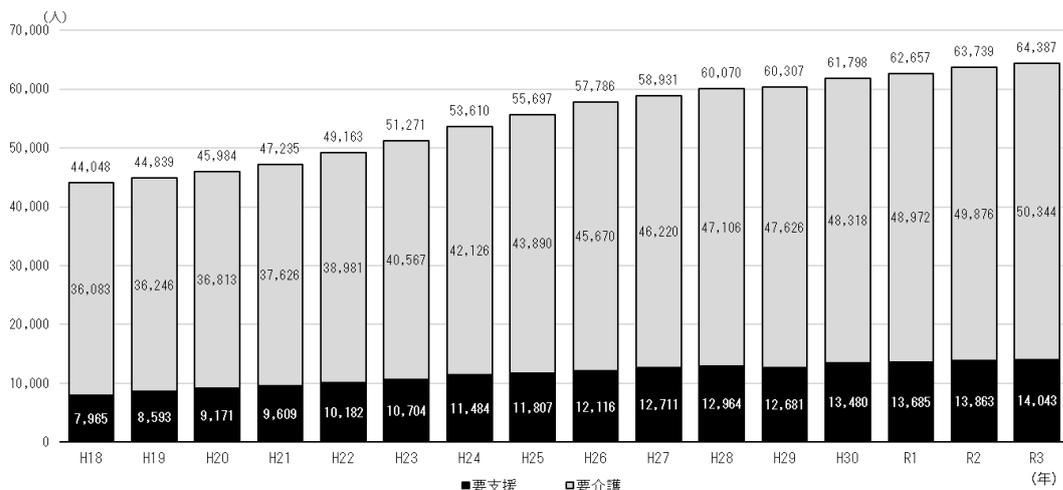
【主要データ】

■県人口に占める高齢者割合の推移（全国・富山）



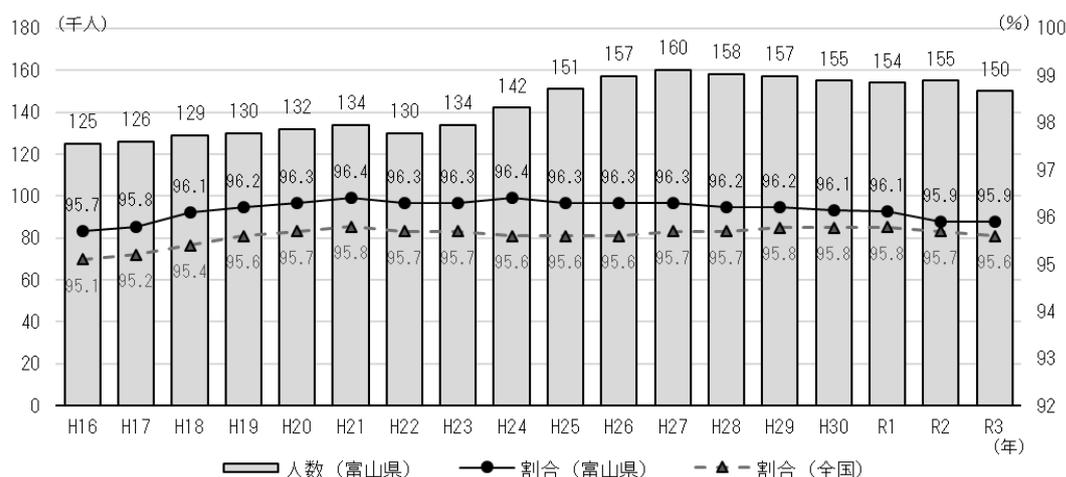
出典：国勢調査（総務省）、人口推計（総務省）

■ 県内の要介護（要支援）認定者数（65歳以上）の推移（各年度末現在）



出典：介護保険事業状況報告（厚生労働省）

■ 県内の介護を必要としない高齢者の割合及び人数の推移(65～74歳)



出典：介護保険事業状況報告（厚生労働省）

(2) 施策の展開

○ 取組みの基本方向【目指す姿】

- ・ 良好な栄養・食生活、身体活動・体力の維持や向上のための運動など、個々人にあった生活習慣を普及します。
- ・ 認知症対策、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）やフレイル（虚弱状態）の予防、口腔機能の維持・向上など、介護予防の充実を図ります。
- ・ 元気な高齢者が、長年にわたり培った知識や経験を活かして、仕事や地域活動・ボランティア活動などに積極的に参加し、年齢に関わらず、持てる力を最大限に発揮できる「エイジレス社会（生涯現役社会）」の実現に向け、意識の転換や社会活動等への参加を促進します。

○主な取組み

- ・老人クラブをはじめとする地域の各種団体が実施する健康づくりや地域社会活動等の支援
- ・健康的な生活習慣づくり、手軽にできる運動やスポーツプログラムの提供による健康づくりの推進
- ・介護予防に関する基本的な知識の普及啓発や市町村の介護予防活動への支援
- ・地域包括支援センターによる高齢者の状態に応じた介護予防ケアマネジメントと、運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上などの介護予防事業の実施
- ・低栄養の予防のため、高齢期に不足しがちなタンパク質や脂質などの多様な食品を摂取するなど正しい食生活の普及
- ・ロコモティブシンドローム（運動器症候群）や加齢による虚弱（フレイル）の予防に関する普及啓発の推進
- ・認知症に関する正しい知識の啓発による早期発見、早期対応の推進
- ・教養・趣味・スポーツ等の生きがい対策の充実や仲間づくり等の推進
- ・「シルバー人材センター」や「とやまシニア専門人材バンク」における高齢者の就業機会の確保や高齢者人材の活用の促進
- ・高齢者のボランティア・NPO活動への参加促進

(3) 目標（指標と目標値）

目標（指標）	現状値	目標値	目標値の考え方（出典）
介護を必要としない高齢者の割合の増加	80.8%	増加する	介護予防の推進等により、元気な高齢者の増加を目指す
要支援・要介護認定を受けていない高齢者（65歳以上）の割合	(R3)		介護保険事業状況報告
ロコモティブシンドロームの減少	252人	227人	健康日本21（第三次）と同様に設定（現状値から1割減）
足腰に痛みのある高齢者の人数（人口千人あたり）（65歳以上）	(R1)		国民生活基礎調査
低栄養傾向の高齢者の割合の減少	18.3%	13%	健康日本21（第三次）と同様に設定
BMI20以下の高齢者（65歳以上）の割合	(R3)		県民健康栄養調査
65～74歳の人口に占める就業者の割合の増加	44.2%	現状以上	高齢者就業支援の推進等により割合増加を目指す
65～74歳の就業率	(R2)		国勢調査
地域社会における高齢者等の活動の増加〔再掲〕	1,402件	増加する	地域活動への参加推進等により元気な高齢者の活動増加を目指す
とやまシニアタレントバンク、とやま語り部バンク等の登録者（団体）の活動件数	(R3)		高齢福祉課調べ

<参考値>	富山県	全国	出典
入院受療率（関節症） （人口10万対）	13人 (R2)	14人 (R2)	患者調査
入院外受療率（関節症） （人口10万対）	171人 (R2)	155人 (R2)	患者調査
老人クラブ加入率	32.9% (R3)	10.1% (R3)	福祉行政報告例

3 女性の健康

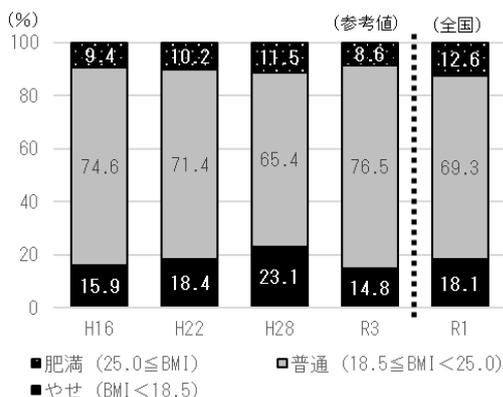
女性は、ライフステージごとに女性ホルモンが劇的に変化するという特性があり、妊娠・出産、更年期障害や特有の疾病等、年代によって様々な健康課題に直面します。また、本県は全国と比較し女性就業率や共働き率が高く、こうした就労世代や子育て世代は健康づくりに費やす時間が十分に取れない状況にあります。女性の生き方が多様化し、活躍の場が増え、ライフスタイルが変化する中、年代に応じた女性の心身の健康維持が重要です。

(1) 現状と課題

- 20～30歳代女性のやせの割合は、2016（平成28）年まで増加傾向にありましたが、2021（令和3）年（調査方法が異なるため参考値）は減少しました。
- 睡眠が6時間未満の者の割合の推移をみると、男女ともに増加傾向にありますが、2016（平成28）年では男性40.3%、女性43.6%と女性の方が男性より割合が多くなっています。
- 妊娠・出産年齢は年々上昇しており、初産年齢は2022（令和4）年では30.6歳（全国30.9歳）となっています。
- 女性の健康寿命は、2010（平成22）年と2019（令和元）年を比較すると、74.36年から76.18年（+1.82年、全国+1.76年）と延伸しています。
- ◆女性は、ライフステージごとに女性ホルモンが劇的に変化することから、その特性を踏まえた健康づくりの推進が必要です。また、女性の就業率の上昇に伴う働く女性の健康課題や、家庭における家事・育児・介護等のケアワークが健康に与える影響にも目を向ける必要があります。
- ◆若い女性のやせ（低栄養）は、排卵障害や女性ホルモンの分泌低下など自身の健康状態や、次世代のこどもの健康にも影響することから、適正体重の維持やバランスの取れた食生活の確立が必要です。
- ◆女性が安心して安全に子どもを産み育てることができる環境の整備等、母と子の健康づくりを支援する必要があります。
- ◆女性特有の乳がんや子宮頸がんは、がん検診により早期発見・早期治療が可能なことから、定期的な健康チェック・検診の受診を推奨することが重要です。

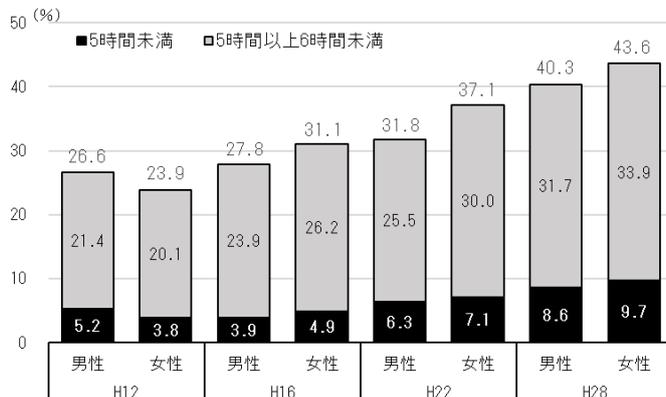
【主要データ】

■20～30歳代女性のBMIの年次推移



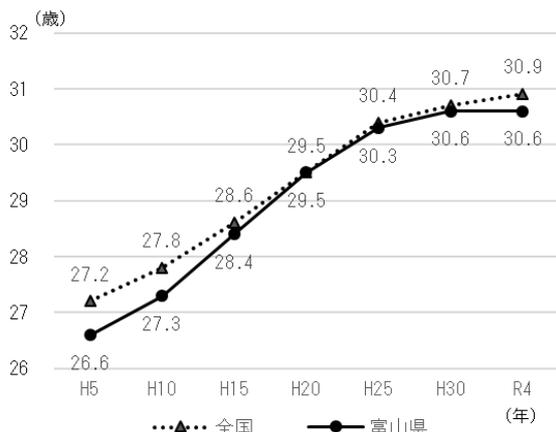
出典：県民健康栄養調査（富山県）

■睡眠が6時間未満の者の割合の推移（性別）



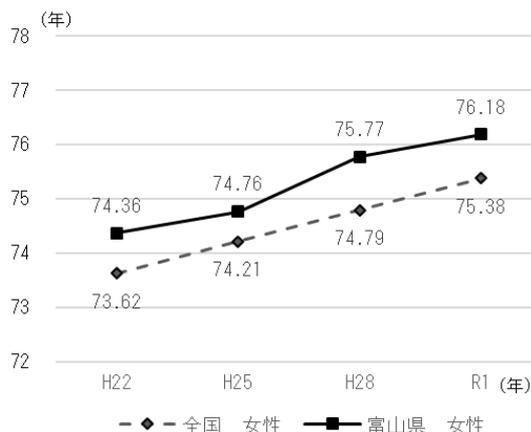
出典：健康づくり県民意識調査（富山県）

■初産年齢の推移



出典：人口動態統計（厚生労働省）

■女性の健康寿命の推移



出典：厚生労働省科学研究費補助金の研究班において算定

(2) 施策の展開

○取組みの基本方向【目指す姿】

- ・「女性の健康」について女性ホルモンの影響にも着目し、ライフステージごとの健康課題の解決に取り組みます。
- ・母子を取り巻く環境の複雑化、多様化を踏まえた妊娠期から子育て期への切れ目ない子育て支援に取り組みます。
- ・若い頃からの、将来の妊娠にむけた健康管理（プレコンセプションケア）の推進に取り組みます。

○主な取組み

- ・若い女性がやせ（低栄養）にならないための食生活及び生活習慣の改善に関する啓蒙普及
- ・女性を含む働き盛り世代の十分な休養や睡眠を確保するため、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた働き方改革の推進や、職場環境改善に向けた意識啓発の推進
- ・女性特有の乳がんや子宮頸がんの早期発見・早期治療につなげるため、がん検診の受診率向上に向けた取組みの実施
- ・女性を対象とする骨粗鬆症検診など市町村が実施する各種検診等への支援
- ・毎年3月1日から3月8日までの「女性の健康週間」にあわせ、女性の健康に関する普及啓発活動の実施
- ・「富山県女性健康相談センター・不妊専門相談センター」において、様々な女性の健康に関する悩みや、不妊・不育に悩むご夫婦、妊娠・出産について悩んでいる方に対する相談や支援を実施
- ・妊産婦のメンタルヘルスの保持や産後うつ等の早期発見・支援のため、妊娠期からの子育て期にわたる切れ目ない支援体制構築の推進
- ・妊産婦の喫煙・飲酒対策のための富山県ホームページ等での普及啓発
- ・プレコンセプションケアの推進のため、性や生殖に関するリーフレットを作成し、男女問わず正しい知識の普及啓発を実施

- ・市町村と連携し将来子どもを望む夫婦を対象に、本格的に妊活について考える前のプレ妊活健診の実施
- ・企業におけるフェムテックの導入など女性の健康課題に対応する取組みを支援

(3) 目標（指標と目標値）

目標（指標）	現状値	目標値	目標値の考え方（出典）
若年女性のやせの減少 BMI18.5未満の20~30歳代女性の割合	14.8% (R3) ※	15%	健康日本 21（第三次）と同様に設定 県民健康栄養調査
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している女性の減少〔再掲〕 1日当たりの純アルコール摂取量が20g以上の女性の割合	6.3% (R3) ※	減少する	富山県アルコール健康障害対策推進計画と同様に設定 県民健康栄養調査
骨粗鬆症検診受診率の向上 骨粗鬆症検診受診率	3.1% (R2)	15%	健康日本 21（第三次）と同様に設定 地域保健・健康増進事業報告及び国勢調査より健康課で算出
睡眠で休養がとれている者の（女性）の増加〔再掲〕 睡眠で休養がとれている者の（女性）の割合	78.2% (R3)	80%	健康日本 21（第三次）と同様に設定 健康づくり県民意識調査
妊娠中の喫煙をなくす〔再掲〕 妊娠届出時の妊婦の喫煙率	1.1% (R3)	0%	第2次計画の進捗状況を考慮し目標値を継続 健やか親子 21（第2次）の指標に基づく乳幼児健康診査必須項目

※ 現状値は、国の R3 国民健康栄養調査が中止となり、県独自で実施した R3 県民健康栄養調査の結果を記載（参考値）

4 働き盛り世代の健康

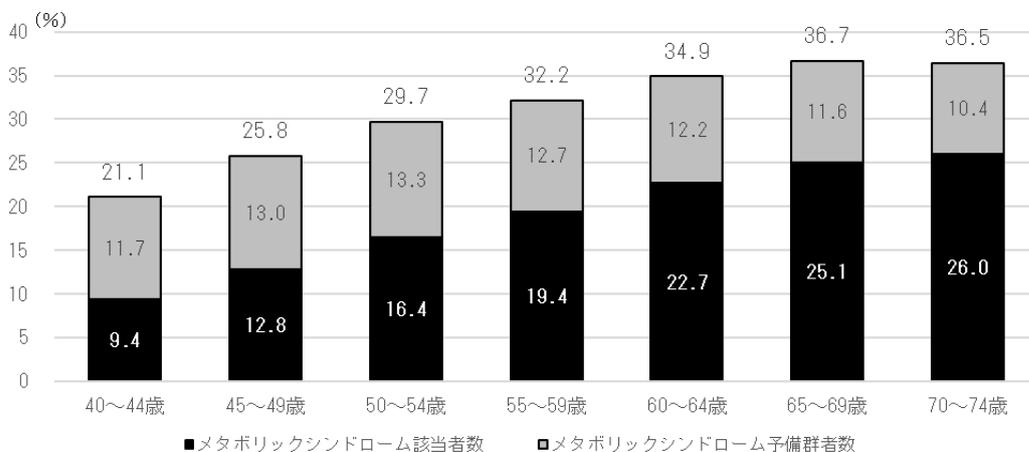
働き盛り世代（30～50歳代）は、仕事や育児などに多忙な年代であり、健康づくりのための時間を十分にとることができない、長時間労働による不規則な食生活や睡眠不足・ストレスなど、メタボリックシンドロームや生活習慣病などの要因となる様々な健康課題があります。働き盛り世代の健康づくりは、将来的な生活習慣病予防や介護予防につながるほか、従業員を雇用する企業の生産性の向上にもつながることから、企業・団体などと連携した取組みが重要です。

（1）現状と課題

- メタボリックシンドローム該当者及び予備群は、40歳代から50歳代にかけて大きく増加しています。
- 年代別の野菜の摂取量では、40歳代（246.0g）が最も少なくなっています。
- 運動習慣者の割合では、女性の30歳代や40歳代が少なく、男性も40歳代の割合が少なくなっています。
- 睡眠による休養の充足度では、男性では30歳代（60.0%）、女性では50歳代（67.2%）が低くなっており、全体でも他の年代と比較し30～50歳代の充足度が低い状況です。
- 最近1か月間のストレスの状態では、各年代とも男性より女性の方が「ストレスがある」と回答した割合が高く、男女とも30～40歳代で割合が高くなっています。
- ◆30～50歳代の働き盛り世代の健康的な生活習慣づくりによる、生活習慣病予防に取り組む必要があります。
- ◆生活習慣病の早期発見・早期治療につなげるため、医療保険者が取り組む特定健康診査やがん検診など、定期的な健康チェックを推進する必要があります。
- ◆企業と連携し、従業員の食生活や運動習慣の改善等を支援する必要があります。

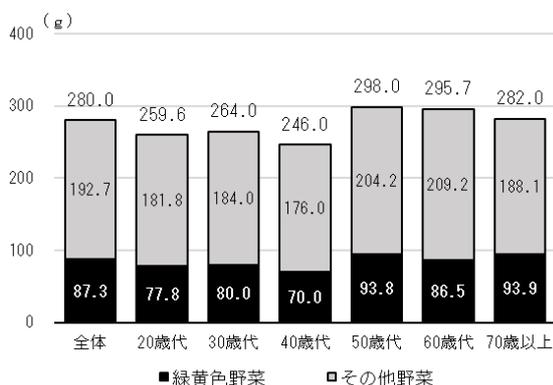
【主要データ】

■メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合（年代別）



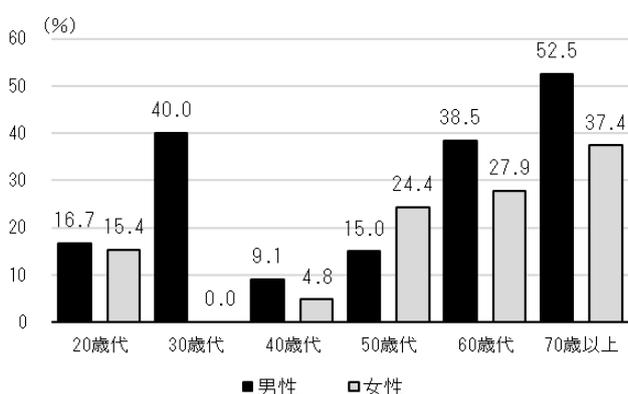
出典：令和3年度特定健康診査・特定保健指導に関するデータ（厚生労働省）

■野菜摂取量（年齢別）



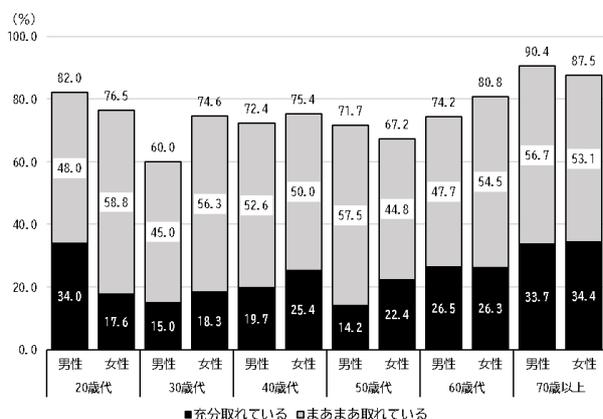
出典：平成28年県民健康栄養調査（富山県）

■運動習慣者の割合（性別・年齢別）



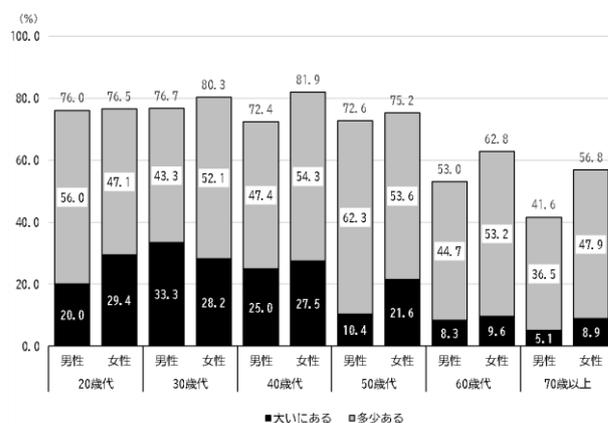
出典：平成28年県民健康栄養調査（富山県）

■睡眠による休養の充足度（性別・年齢別）



出典：令和3年健康づくり県民意識調査（富山県）

■最近1か月間のストレスの状態（性別・年齢別）



出典：令和3年健康づくり県民意識調査（富山県）

（2）施策の展開

○取組みの基本方向【目指す姿】

- ・企業や関係団体等と連携し、働き盛り世代の健康づくりに取り組みます。
- ・医療保険者による特定健康診査・特定保健指導の推進、職域でのがん検診受診を促進します。

○主な取組み

- ・企業全体で従業員の健康づくりを戦略的に実行する「健康経営」に取り組む企業を顕彰し、優れた取組みの横展開の実施
- ・働き盛り世代の生活習慣病予防のための食生活の改善のため、利用者に応じた適切な栄養管理を実施している特定給食施設の増加や栄養管理の質向上の支援
- ・企業におけるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた働き方改革の促進のため、研修会、セミナーの開催等による普及啓発の実施
- ・中小企業等におけるこころの健康に関する相談や、労働局と連携し、ストレスチェックの活用を促進するなど、職場におけるメンタルヘルスの実践支援

- ・医療保険者や事業主とのコラボヘルスを推進し、健康診断の受診率向上を図るとともに、生活習慣病ハイリスク者に対しては専門職による保健指導や受診勧奨を実施
- ・気軽に取り組むことができる運動やスポーツの普及・啓発や、スポーツイベントの情報提供等による運動の習慣化の推進

(3) 目標（指標と目標値）

目標（指標）	現状値	目標値	目標値の考え方（出典）
日常生活における歩数の増加〔再掲〕	20～64歳男性 [7,185歩] 20～64歳女性 [6,056歩]	20～64歳男性 8,000歩 20～64歳女性 8,000歩	健康日本21（第三次）と同様に設定
1日の歩数の平均値	[H28]※1		県民健康栄養調査
運動習慣者（30～50歳代）の割合の増加〔再掲〕	男性 23.1% 女性 14.4%	男性 40% 女性 35%	第2次計画の進捗状況を考慮し目標値を継続
1回30分以上の運動やスポーツを週2回以上実施し、1年以上継続する者の割合	(R3)※2		県民健康栄養調査
成人のスポーツ実施率の増加〔再掲〕	38.8%	50%以上	元気とやまスポーツプラン（第2期）と同様に設定
週1回以上、運動やスポーツをする者の割合	(R4)		県政世論調査
睡眠で休養がとれている者（30～50歳代）の増加〔再掲〕	男性 69.0% 女性 72.2%	男性 80% 女性 80%	健康日本21（第三次）と同様に設定
睡眠で休養がとれている者の（30～50歳代）の割合	(R3)		健康づくり県民意識調査
年次有給休暇の取得率の増加〔再掲〕	59.1%	65%以上	次世代につなぐとやまっ子みらいプランに準ずる
年次有給休暇の取得率	(R3)	[2026 (R8)]	富山県賃金等労働条件実態調査
週労働時間60時間以上の雇用者の割合の減少〔再掲〕	8.8%	0%を目指す	次世代につなぐとやまっ子みらいプランに準ずる
週労働時間60時間以上の雇用者の割合	(H28)	[2026 (R8)]	就業構造基本調査

※1 歩数はR3県民健康栄養調査で調査を実施できなかったため参考値としてH28（中間年）の数値を記載

※2 R3は「健康づくり県民意識調査」（県独自調査）の結果を記載（参考値）